

機友会会報

第13号

宮崎大学工学部機友会 2010年10月発行

CONTENTS

青春グラフィティー3	1
大学時代の思い出と近況報告…宮崎に感謝	2
日常雑感	3
リタイア後の田舎暮らし	5
戦艦大和を作った呉市のその後	6
自然農のお米づくりを通して	8
学生生活について	9
材料力学研究室の紹介	10
機械システム工学科の近況	11
就職／進学先一覧（平成22年3月卒業／修了）	12
平成21年度の博士論文・修士論文・卒業論文の題目一覧	13
平成22年 機友会理事会議事録	15
平成21年会計報告と平成22年予算	16
平成22年機友会役員名簿	17
機友会への寄付者の一覧	18
支部総会のご案内	19

**がんばろう
宮崎!**

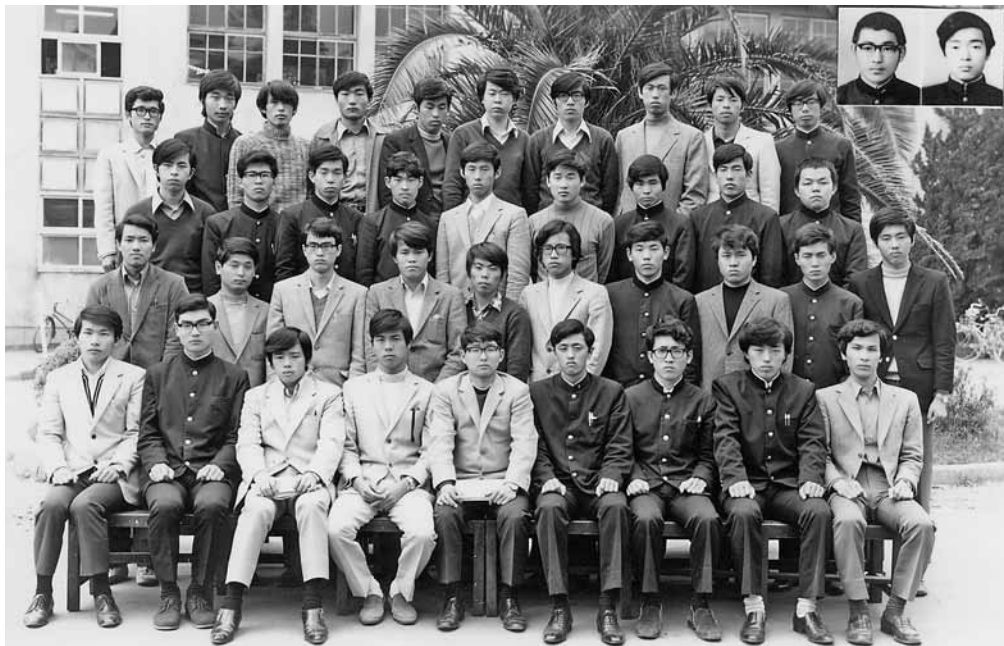
今年4月以降の口蹄疫によるきわめて深刻な被害に対して、機友会会員をはじめ全国の方々から宮崎への大きなご支援や激励、ありがとうございました。
口蹄疫被害は、今後も長く宮崎県全体に影響を及ぼします。可能なご支援を、引き続きお願いします。
義援金等は、宮崎県庁ホームページをご覧ください。
<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/>



昭和32年4月入学生の卒業時(昭和36年3月)の学生と教職員の集合写真

写真の最前列左から、古池信義教務職員、松田吉昭助手、山内高調講師、堀保助教授（共通講座）、川嶋晃助教授、野田肇教授、橋本守一助教授、守恭平助教授、前田安巳助教授、時任文一技官、藤森功技官、佐々木政俊技官。前から2列目の左端 續忠志技能補佐員、左から5人目 若杉康雄技官、右端 小佐井昭助手（共通講座）。（職位は、昭和32年4月当時のもの。工学部教務厚生係にあった機械工学科の一番古い集合写真）

青春グラフィティー 3



1971 (S46) 年4月
入学時の写真



1973 (S48) 年4月
入学時の写真



1975 (S50) 年4月
入学時の写真

大学時代の思い出と近況報告・・・宮崎に感謝

高井 光男 (1977 (S52)年卒業)

大学時代の思い出

昨年の5月の連休に、家族で宮崎を訪れました。機械工学科の同級生の結婚式以来、25年振りの宮崎で、非常に懐かしく、県立病院の前の滞在したホテルより、朝6時くらいから歩いて、学生時代4年間、間借していた北権現町へ向かい、当時の間借先を確認し、工学部の跡地を経由して、ホテルまで帰ってきました。景色は様変わりしており、よく通った食堂や飲み屋は、ほとんどなくなっており、日豊本線も高架になっていました。

大学時代は、本当によく飲みました。しかしながら入学直後の機械工学科の新入生歓迎コンパは欠席してしまいました。(先輩方すいませんでした) 何故か・・・。実は、その数日前、工業化学科の友人(高校が同窓で酒豪)が、新入生歓迎コンパで大いに飲まされ、リヤカーで間借まで運ばれ、翌日は丸一日、寝たきりで食事もできない状態で、「新入生歓迎コンパは行かない方がいい、次の日、焼酎の看板を見ただけで吐いたぞ」と貴重なアドバイスもらった結果です。しかしながら、焼酎なしで、大学生生活いや宮崎で暮らすことは不可能でした。間借には、機械工学科の1年先輩が居られ、もう一人の農学部先輩と3人、間借で焼酎一升瓶を空け、西橋通り近くの先輩行きつけの綺麗なママのいるスナックに行って、お茶漬け屋に行った後、間借へ帰るというパターンを、月に2~3回のペースで繰り返したこともありました。ほとんど先輩のおごりでした。また、工学部の体育祭では、2年生の時、間借の先輩の配慮?で、応援団に入り、体育祭の1ヶ月前くらいから、応援練習の後、3年生の先輩の皆さんと毎晩のように、工学部の向かいの飲み屋に通っていました。また、機械工学科の同級生とは、3~4年生の時に、春と秋のシーズンには、週に2~3回は、大学の各クラブ主催のダンパ(ダンスパーティー)に、7~8人の仲間通っていました。パー券(パーティー券)



【青島にて】

は300~500円で、マンボ・ジルバ・ブルース(チーク?)が少々できれば十分楽しめ、うまくいけば彼女をゲットできるという素晴らしいシステムでした。ダンパの後には、同級生で行くスナックが決まっていたのですが、いつも2~3人が不参加で彼女と楽しい時を過ごしていたのだと思われます。

飲んで遊んでばかりではなく、勉強の方もそれなりに要領よくやっていたと思います。古田先生の「偏微分方程式・・・」の数学、前田先生の「エンタルピー・エントロピー、〇〇サイクル・・・」の熱力、真冬でも半袖の中村先生の気力、山内先生、牟田先生の機構、川嶋先生の水力、松田先生の機力、平野先生の「・・・で微小項は無視して・・・」の流体など、一回講義を受けただけでは難解な内容でしたが、前後期の試験10日前くらいからは、飲み・遊びはシャットアウトし、間借の先輩が集められた3年分くらいの各科目の試験問題と解答をいただいて、機械工学科の勉強仲間3人で、それぞれ問題を解き教え合うという試験の傾向と対策を入念にしておりました。4年生の研究室は平野先生の流体力学で、キャビテーション翼(一般的には効率低下のキャビテーションを積極的に利用し効率を上げることだったと思います)についての研究で、(微小項は無視した・・・)数式を作っては、電算機(コンピューター)で計算するという繰り返して、電算室の松田先生の奥さんには大変お世話になりました。間借の先輩と飲み遊び仲間と

勉強仲間の間を渡り歩いて、非常に有意義な大学生活が送れたと自負しております。

今まで、生まれ故郷の福岡の田川に高校までの18年間、宮崎に大学の4年間、就職し奈良に33年間住んでいます。宮崎の4年間はやはり新鮮で強烈であり、私にとって宮崎は第二の故郷です。私は宮崎を紹介する時、学生時代に、MRTのラジオで聞いた話をします。日本の国の始まりで、天照大神が高千穂峰に天下った後、三代を経て、神武天皇が美々津からお船出され、東征して大和国家を築かれた。その時に、優秀な人は皆連れて行ってしまい宮崎には、人柄がよく、温厚で、のんびりで、優しい人(一言で言うと優秀ではない人)が残ったという話を宮崎の人は本当に信じている(?)とのこと。 「リタイヤしたら、宮崎に住みたい」、これが私の願望であり、宮崎の県民性は、日本一だと思います。

社会人生活と近況

就職は、当初は、トヨタなど機械系の会社を考えていましたが、担任の川嶋先生に、「トヨタに入っても車の設計とは限りませんよ、オイルショックの後で車以外にも力を入れるので、住宅(トヨタホーム)の雨といの設計をさせられるかもしれないですね」との話と「松下は電気系の人には難しいが、機械系の人意外と簡単ですよ」とのご指導を受け、1977年に、松下電器産業(現 パナソニック)に入社いたしました。

以降、電気暖房機器(電気温風機・ストーブ、電気瞬間シャワー、電気カーペット・毛布など)と温水洗浄便座の設計を28年間、品質管理を6年間の社会人生活を送っております。新たに学ばなければいけないことも多いの

ですが、温水洗浄便座など水回り機器や温風機など風回り機器を設計した時には、大学で学んだ水力学や流体力学、騒音・振動の課題が発生した時には機械力学が役に立ち、今でも大学時代の水力学や流体力学や機械力学の本は、会社の机の中にあります。そして、たまに見た時には、当時の先生のお姿や授業風景が頭に浮かんできます。

他の日本の製造業と同じように、パナソニックも、ものづくりは中国を中心とした海外にシフトしていております。私の事業場も、中国の杭州で温水洗浄便座、大連で電気カーペットなど、東ガンで電気温風機を生産しています。現在は、温水洗浄便座の品質を担当しており、杭州の工場や中国のサプライヤーに、3ヶ月に1回くらいの頻度で、工程確認と指導で出張しています。温水洗浄便座につきましては、2003年の杭州立上げ当初から関っており、たくさんの中国人と仕事をしてきましたが、その中で感じることは、日本的なものづくりがなかなか定着しないということです。中国人は、一人ひとりでは非常に優秀な人が多いのですが、集まるとだめです。ミーティングでも、日本人が仕切らないと、個々で話しを始め収拾がつかなくなります。「個々では強いが集まると弱い」これは中国3000年の歴史で仕方がないことで、中国にあった日本的なものづくりを現在模索中です。

私の現在の生活の基盤となっているのは、宮崎での4年間だと思っております。当時の先生方、先輩、同級生、後輩、それと宮崎の人と風土に感謝・感謝・感謝。

日常雑感

田中 愿 (1958(S33)年卒)

大学を卒業して52年、宮崎大学工学部も大淀川近くの、西丸山町(現霧島町)から、かつての清武町へ移転、その間社会も神武景気からリーマンショックまでめまぐるしく変

動してきました。

ただ、残念なことは、この50年間で現在の世相ほど厳しく、荒廃し世の多くの人々が将来に光を見出しにくい時代はなかったよ

うに思えてなりません。

最近のTV、新聞で見聞きすることは、ひと昔前なら考えられなかったようなことが、日常茶飯事の出来ごとになっています。

この様な時代をつくった責任は、我々世代の人間にもあるのではと反省の念も感じます。

近頃の若いものは云々…ではなく、年寄りも反省し、若い人と協力して、先に希望の見える世の中、社会にしてゆくことが肝要でしょう。

今日は、いわゆる現役時代のエピソードなどを書ければと筆を執りましたが、何分許認可官庁といわれる旧運輸省での仕事は、会社の方が一生懸命努力し、企画されたことに対し、法律、規則(泥棒、だますなど悪事を取り締まる法律、規則は別として)に拠って、規制、制限し活動を抑制するような事案が多く、書くことが憚られる次第です。

例えば、船の建造船台、ドックを大きくしてはだめ、大きな船を建造してはだめ、たくさん船を造ってはだめなどなど。

そんな中で、喜んでもらえた事案もありました。東北地方に勤務していた時(1974年頃)、従業員は、社長以下5~6人の鉄工所を、低利資金の融資について推薦しました。融資が実現し、特殊な工作機械を導入できたと大変感謝されました。こんな小さな田舎の鉄工所で融資が得られたのは、めったに無かったことでした。

そこの社長さんは、研究熱心で、船用ディーゼルエンジンのボッシュ式燃料ポンプのプランジャーの耐摩耗性をあげる研究をして、試行錯誤の末、カバードプランジャーと命名した溶射肉盛のプランジャーを開発しました。肉盛プランジャーの加工用に、融資金を活用し、工作機械メーカーと共同開発した電解研磨機を導入し、高い精度と加工性を得ることができたのです。このプランジャーを新品として、エンジンに採用装着してもらうことが望みだったのですが、何分田舎の町工場が開発したものであることからか、エンジンメーカーからは、採用の注文が無いことを悔やんでいました。

したがって、磨耗し一般には廃棄されるプランジャーを、溶射肉盛し補修再生して供給していました。この再生プランジャーを使っている漁船船主さんからは、新品より噴射圧力の低下が小さく、長持ちすると認めてもらっていたようです。

75歳にもなると、現在の健康を如何に維持してゆくかということに最も気を遣います。

小生も、そのためには、先ず足を使うことが基本であろうと勝手にきめ、いろいろ首を突っ込んでいます。

頭を使うことも大事でしょうが、何か成果を挙げられるような脳味噌を持ち合わせていないので、月二回老人会で下手な囲碁をうっています。進歩は全くありませんが、ボケ防止になるかと期待しています。

足を使うこととしては、近所の休耕田を借りての畑仕事。これは、夏場は雑草との戦いです。作物は、世話をやいてもなかなか伸びてくれませんが、雑草の如しとの名のとおり、放ったらかすほどよく成長してくれます。そのうえここは、棚田の休耕田のため、60坪ばかりの畑とはいえ周囲の高い土手の草刈がおまけに加わり、汗水垂らしての悪戦苦闘です。半日畑に出ると1キロは減量できます。町に出てお金を遣う暇がないこと、家にいて山の神様と顔突き合わすことが少ないことなど、助かる面もあります。

二つ目は、月1回の金剛山(大阪府下の最高峰=1125メートル=家から秀峰が眺められます)での、清掃登山です。

1時間ぐらいの楽なコースから、ルートによっては延々とアップダウンのある尾根道をとおり、3時間ぐらいかかるコースもあり、たかが金剛山、されど金剛山の清掃登山です。昨年秋には、長いコースは初めての60代のメンバーが、ちょっと体調が良くないと自覚はしていたのに、また、小生もこのコースは長いので無理せず、引き返した方が良いでしょうと薦めたのですが、たかが金剛山と思ったのか、マイペースで後からゆっくり登るから大丈夫と言われるので、先に進んだものの、あまりにも遅いのでメンバーの幹事が様子

を見に引き返したところ、途中で動けなくなっていたとのこと。やむなくヘリコプターの救援を頼み、無事病院へ運びました。低い山でも慎重さが必要という教訓になりました。

また、老人仲間と月1回町歩きを楽しんでいます。以前は、山にも登っていましたが、大正末生まれのメンバーもいて、最近では専ら町歩きを楽しんでいます。計画どおりに完歩することは少なくなり、途中で打ち切ったり、中抜きしたり、喫茶店で一服したりとのんびりしたウォーキングです。良く知っているつもりの町でも、車と歩きでは見えるものが全く違い、新発見が多々あり、初めて訪ねた町のような感じでした。

これからあと何年元気で居られるか、ケセラセラなるようになると気ままに余生を送りたいと思っています。

家から見える金剛山の写真を添えて、下手な文章を締めくくります。



リタイア後の田舎暮らし

鶴巣 瑞穂 (1967(S42)年卒業)



私はH13年3月に定年未満(56歳)で川崎重工を早期退職しました。当時、世の中は不景気でリストラの嵐が吹き荒れており、当社も例外ではなく早期退職者優遇制度(退職金割り増し)を設けて体のいい肩たたき首切りが行われていました。平常時でも55~56歳になれば、役員でない管理職は子会社等へ出向し62~63歳まで就労する形態が存在していました。私も年齢、職位からして間もなく子会社へ出向しなければならぬ状況でした。

一方、田舎で母は父亡き後3人の子がいずれも故郷を離れて生活しているため、20年近く一人暮らしを続けていました。長男である私は墓や遺産管理のため退職したら田舎暮らしをせざるを得ないし、野菜でも作りながらのんびり過ごすのも悪くないと思っていました。その母は80歳を過ぎても経済的に自立し、血糖は

若干高いが身体的にも心配はなく、集落の皆さんとゲートボールに興じたりデイサービスに通ったりと元気に過ごしていました。ただ高齢の一人暮らしだけが気がかりで、数年前から私が退職するまでの間、私と同居するように勧めていました。当初は「老いては子に従えだからいずれはそうするよ」と言っていた母でしたが、83歳になってもその気になってくれない、もしこの状況で母が亡くなると、集落、親戚に多大な迷惑をかけるし、その後、私が退職して田舎に帰っても集落は快くは迎えてくれないであろう。

結局は母の説得をあきらめ、会社の早期退職者優遇制度による退職の道を選び、田舎で母と同居することにしました。

集落の状況と私

現在の集落の世帯数は24(29)、人口は63(75)名である。()内数字はH13年の数字。生業は農業専業が4世帯で、他は建設業・サービス業に従事しているか年金暮らしの世帯です。帰郷後職安に通いますが、自分に合う職がある筈もなく、当初は預金の取り崩しで現在は年金暮らしです。集落では生活道路の整備・葬儀・祭りなどの共同体の機能の維持が困難にな

ってきています。(所謂限界集落)

私の帰郷は集落・親戚からも歓迎されたいし期待もされました。翌々年のH15年には集落の自治会長に選任されました。長年の懸案事項であった集会所の建て替えを行ってこれということです。早速新集会所の設計、建て替費用の算出、自治会手元資金の整理、行政の補助金の調査などを行いました。結果、手元資金は所要額の半分しかなく、不足分は行政の補助金と農協からの借入金で賄うこととしました。補助金・借入金の審査・認可をスムーズに行うため、自治会の法人化(地縁団体)も同時に行いました。この法人化は集落の消滅化対策・合併等にも役立てようと考えています。私はこれらの活動を通じて、集落、行政など多数の方々と接触・交渉し一応の成果を挙げることができました。これによりヨソ者ではなく、集落民として認められたと考えています。(私事ですが、母はこの年に亡くなりました。私、当時59歳)

資産と日常活動

私が維持管理する資産は、田1枚(0.7反)、畑2枚(5反)、山林8枚(2町8反)です。殆ど先祖から受け継いだもの。家屋に隣接している2反の畑にありとあらゆる自家用作物を作っています。他の資産は放置状態で、なかでも山林の荒廃は気になるところです。手入れしても何の収益も期待できないからです。畑作業の種まき、育苗、草取り、収穫を夫婦二人で行っています。いくら時間があっても足りないほどです。昨年ぐらいから月3~4回ゴルフをしているのでなお更です。収穫物は自家消費のほか同窓生等にあげています。

農作業のほかに中学(299名卒業)、高校

(197名卒業)の同窓(期)会の会長、書記(実質会長)をしており、これに付随する活動も日常のかなりのウエイトを占めます。

また、大学のS42年卒同窓会は江藤保男会長以下幹事5名の皆さんにお世話になり、今年4回目を開催したところです。幹事の皆さんに感謝しています。機友会所属支部については、現役時代は近畿支部に、リタイアしてからは松田吉昭先生のご配慮により鹿児島県ながら宮崎支部の会員にして頂いています。

集落の共同体機能維持

何ら手を打たないままの10年後の集落の姿を推察すると、世帯数15(内70歳以下の現役世帯10)で人口は40~50名となります。若者が流出しない、流出した者が住みたくなる集落作りを先頭に立ち行っていきます。

老婆心

早期リタイアした者が言うのはおこがましいですが、年金の空白のない離職をしてください。また、定年就農は貴方と奥様双方の体力・気力と相談の上決断されるのがいいでしょう。(機友会会報第9号掲載の「定年就農」渡邊機友会会長執筆は必読です)



戦艦大和を作った呉市のその後

是貞 博(1955(S30)年卒業)

呉の「大和ミュージアム」で「私の八月十五日」展が開催されています。終戦を経験した120名の漫画家・作家たちが1945(昭和20)年8月15日、何処で何をし、何を考えていたかを絵手紙にしたものが展示されています。

私の八月十五日は、宮崎県立妻中学校の1年生で勤労奉仕として近くの農家で田の草取りを手伝っていました。それから10年後の1955(S30)年、前田先生の紹介で、海軍工廠の造機部に属しボイラーと大型のポンプ試験用水槽をもった工場を借用して、蒸気タービン、



ポンプを製造、販売をしていた広造機(現在新日本造機)に就職することになり、呉の住人となりました。会社は造船所からの仕事で忙しくなり始めたところでした。

終戦と同時に呉市にも占領軍が進駐し、海軍工廠の徹底的な解体を進め、百総トン以上の船舶の運航と建造も連合軍によって管理されていました。しかし、占領政策遂行に必要な物資輸送の船舶の不足や外地に残された650万人の在留邦人を内地に運ぶ船が必要なことから、運航が不能になった損傷船の修理と、食糧難解消の方策としての漁船の建造は許可されました。1946(S21)年3月に、財閥系ではない播磨造船所と尼崎製鉄に呉海軍工廠の設備を使用することが認められ、呉船渠として4月1日発足しています。船舶の修理、沈没艦船の引き揚げや解体を行っていたが、先行きの経営が心配される状況でした。そのような時、1951(S26)年、アメリカの海運・造船企業のNBC(ナショナル・バルクキャリアーズ)が戦艦大和を建造した大型のドックを利用して大型タンカーを建造することを計画し、呉海軍工廠造船部の設備半分を使い、「造船所・NBC呉」の事業を発足させることになりました。

アメリカの合理的な経営手法と、商船の建造には全く素人の旧日本海軍の若手技術者と、腕も技術も海軍一といわれた旧呉工廠の熟練工が核となって、世界に例を見ない革新的なタンカーの建造法に挑戦、低迷を続ける他産業を尻目に、日本の造船業は復興を遂げることになりました。それから石油危機までの30年間、建造されるタンカーは年々大型化し、50万トン級の巨大タンカーを生み出すまでになりました。裾野産業の広い造船業の発展は、日本産業復興の牽引力となったことは間違いありません。

呉海軍工廠は、戦艦大和を建造するために欧

米の水準を超える設備を持っていたこと。また海軍では、艦艇に搭載される設備、機器はどここの設備で作っても同じものができるように、設計と製作を標準化し、艦本式(艦本とは海軍艦政本部の略)と呼ばれる基準書が作られていた。これに基づいて設計された図面には図面名称欄の上部に「制式図」の表示がしてあった。これらの資料は終戦時に焼却された筈であるが、私が入社したころは何故かその基準書を使って産業用の蒸気タービンやポンプを設計・製造していました。このような海軍の遺産が、戦後の造船業の驚異的な復興を容易にしたように思います。

NBCとの10年契約が切れた後は、石川島播磨重工が引き継ぎ、現在のIH呉事業所となり、いまでも戦艦大和を建造した屋根つきのドックで貨物船やタンカーが建造されています。また大和の46センチ大砲を製造した設備をもつ工場は、バブコック日立が払い下げを受け、発電ボイラー等の高压容器の製造に活用されています。その他、ステンレス鋼板の日新製鋼、メッキ鉄板の淀川製鋼、砥石のディスコ、精密計測器のミットヨ、グレーティングのダイクレ、錨の寿工業、プロパン容器の中国工業、クラフト紙の王子製紙等、それぞれの製品分野で高い販売シェアをもつ企業が、現在も旧海軍工廠の敷地で活躍しています。

『大和ミュージアム』は、戦艦大和を建造したドックが真正面に見える海岸にあり、戦艦大和の1/10模型や特殊潜航艇「海龍」、人間魚雷「回天」、零式艦上戦闘機の実物資料が展示されています。また1889(明治22)年に呉鎮守府、1903(明治36)年に呉海軍工廠が設置されてから、東洋一の軍港として栄えた呉市。史上最大の戦艦「大和」の建造計画からその技術、大和の辿った運命、沖縄特攻へ出撃した乗組員の遺書や遺品、戦時下の市民生活や呉空襲の様子、戦後、平和産業港湾都市として復興し、現在に至るまでの呉の歴史がパネルと現存する資料で紹介してあります。また3階の展望テラスから、向かい隣にある海上自衛隊資料館前に陸揚げし展示されている実物の潜水艦を見ることができます。(2010年7月19日)

自然農のお米づくりを通して

鏡山 英二 (1978(S53)年卒業)



機械工学科に在籍中は、熱気球づくりに取り組んでいました。当時、学科の諸先生方はじめ、諸先輩方には、大変お世話になりましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

私が、機械工学科を卒業して企業人になり、仕事に忙殺されそうになったある日、妻の誘いで自然農の勉強会に参加しました。その当時、お米と麦の姿の違いも判らない農業には無縁な私でしたが、奈良の川口由一さんという自然農を実践されておられる方からお米の生長のスライドを見せていただきました。草だらけの田んぼに、一本ずつ植えた稲がみるみるうちに大きくなり、沢山の稲穂をたたえ、見事に実った姿を見せていただき大変驚きました。



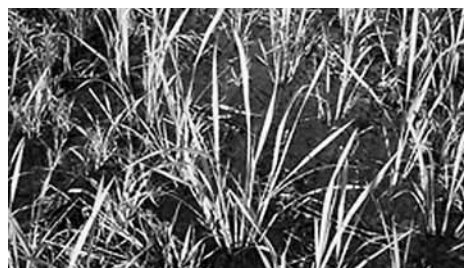
「私は、これまで、お米作りなど考えたこともありませんが、私にもお米づくりが出来ますか？」と質問すると、「出来ますよ、簡単ですよ。」との返事をいただきました。それから、私のお米づくりが始まったのでした。

それからもう、20年近くになります。会社に通いながら、福岡の北西部にある、糸島市二丈の標高100mの山間の一貴山(いきさん)という集落に住んで、近くの棚田でのお米づくりや野菜づくりを楽しむ日々を過ごしています。



自然農は、耕さず、草や虫を敵としない、いのちの営みに沿った栽培方法です。持ち出さず、持ち込まず、農薬や化学肥料を一切使わない農の在り方です。雑草や、虫や、土の中の色々な微生物をも含めて、多種多様ないのちのつながりの中で育った健康なお米や野菜は、ほんとうに素晴らしいなと思います。

また、夏の田んぼは、多様な生き物の宝庫でもあります。田んぼの上空には、赤とんぼや、



自然農の田んぼは生き物の宝庫

時にはギンヤンマが飛び交っています。田の草を刈るために田んぼの稲と稲の間に入ると、稲にはバッタやコオロギ、赤とんぼ、水辺には、ヤゴ、ゲンゴロウ、ミズカマキリ、アメンボ、オタマジャクシ、そして、水草、藻などが見られ、これらの豊かないのち達と一緒に育つお米です。まさに自然農の田んぼは楽園です。

わずかな田んぼと畑を営む自給自足の暮らし(100%ではありませんが。)は、やるべき事も多く、私自身の生きる力を常に問われております。秋には、お米の収穫をして自分で育てたお米を毎日食べることが出来るのは、何物に



収穫した野菜

も替えがたい喜びです。年末には、我が家の土間での親しい仲間との餅つきも楽しみです。妻は畑のものや果物で漬物や乾物、ジャムなど加工していただく食品づくりを何よりの楽しみとしているようです。

四季折々の旬の野菜や果実を食べながら自然の恵みに感謝する日々を過ごさせていただいています。お米づくりは一年に一度しかできません。あと何回お米づくりができるかわかりませんが、生きている限りお米を作り続けたいと

思っています。

10年ほど前からは、電気を使わずにお米の粳摺りができる「人力粳摺り機」の製作に取り組んでいます。いつの日にかは機械科で学んだ技術を使って、実用化できればと、思い続けています。



人力粳摺り

自然農に興味がある方はこちら

[赤目自然農塾] (関西)

<http://iwazumi2000.cool.ne.jp/>

[福岡自然農塾]

<http://www.asahi-net.or.jp/~ir2e-kgmy/>

学生生活について

修士課程2年 長友 修

私は、宮崎大学大学院工学研究科機械システム工学専攻の2年生です。現在、流体力学研究室に所属しており、数値シミュレーションによって様々な流れを可視化する研究を行っています。

日々の研究は大変なものであり、夜遅くまで残ったり、土日祝日に学校に来ることも頻繁にあります。また、現在は研究に関する事を学部4年生や修士1年生に指導する立場にあり、教えることに悪戦苦闘しながらも、毎日楽しく研究に励んでいます。

研究において心掛けていることは、結果を出すまでのプロセスを大事にするということです。プロセス構築をしっかりとしていれば、間違った結果が出て、柔軟に対応できると私は思っています。

もちろん学生生活は研究や勉強だけではなく、自分の趣味に時間を割き、リフレッシュすることもあります。

私は、体を動かし、汗を流すことがとても好きで、頻繁に友達とテニスやバスケット、サッカーなどをしています。また、サイクリングも趣味の一つで、時間をかけて海や山に自転車で出かけることが大好きです。車とは違い、自転車で宮崎の日差しや風を感じながら走るのは非常に爽快な気分になり、体も心もリフレッシュできます。海や森林などの自然や、猿や馬などの動物を見ることは目の保養にもなります。

他にも、先生を含め研究室の仲間とバーベキューや鍋パーティーをして、親睦を深めています。この時だけは、日頃の鬱憤や冗談など、言いたいことを言ったりして笑い合っています。

そして、私の学科の全研究室が最も熱くなるのが、毎年行われるソフトボール大会とボーリング大会です。特に夏に行われるソフトボール大会では、熱い中皆が練習に励み、本番ではいつも以上に皆が一致団結して、優勝を狙うべく熱い戦いが繰り広げられます。私もこの時は気

持ちが燃えます。

以上のように、私の学生生活は決して研究や勉強だけではなく、遊びや趣味も充実していると感じています。そして、研究と遊びを両立さ



流体実験施設前で記念写真！

せるために、時間と気持ちにしっかりとけじめをつけることを常に意識し、楽しい毎日を送っています。



恒例の鍋パーティー

材料力学研究室の紹介

修士課程2年 黒木敬二郎，武部孝信，徳丸剛久，陳石鋼

私たち材料力学研究室の学生は、池田先生、河村先生、木之下先生のご指導のもと、修士生8名、学部生14名の計22名で日々研究を進めています。

研究室の雰囲気は活気があり、進捗度合いを各自考え、自分たちで計画的に研究を進めていくことができます。プレゼンテーション能力や計画的に物事を進めていく能力も卒業後の進路において大変重要です。週1度あるセミナーでは、先生方、修士、学部生の前で、担当になったテーマについて自ら調べ、発表を行っています。どの研究室でも同じことが言えますが、卒業論文・修士論文の出来の良し悪しは、自分が今年どれだけの多くの時間を使って実験できたのか(どれだけ多くの充実したデータを集められたかによる)なので、この材料力学研究室にはそうした試行錯誤しながら多くの時間をかけられる研究がたくさんあります。

私たちの研究室では、廃棄物の利用を目的としたエコマテリアルの開発や、有限要素法を用いた数値解析などを行っています。ここで、私たちの今年度の論文のテーマについて簡単ですが少し紹介します。

○産業廃棄物を利用した高強度ガラスセラミックスの開発(徳丸)

産業廃棄物として排出されるフライアッシュを原料として利用することで機械的かつ化学的に優れた高強度なガラスセラミックスを開発することを目的に研究を行っています。

○セラミックスの疲労寿命予測(武部)

生体材料としても用いられることの多いアルミナの疲労寿命予測についての研究です。静疲労試験、動荷重試験等のデータより繰り返し疲労寿命を算出し、実際に繰り返し疲労試験を行ったデータと比較して寿命予測法を検討していきます。

○プラスチック成形金型の表面温度応答に優れた過熱・冷却方法の検討(黒木)

プラスチック成形金型の表面温度応答に優れた過熱・冷却を検討し、プラスチック成形品の表面性状の向上を目的とする研究を行っています。

○廃棄GFRPを再利用した高強度多孔質セラミックスの開発(陳)

ガラス繊維強化プラスチック(GFRP)の多くが廃棄されている。それを有効利用するため、粘土に粉碎したGFRPを混合して焼成するこ

とにより、強化された多孔質セラミックスの製造方法を研究している。

この他にも、バイオマス燃料を用いたハウス暖房機の小型化に関する研究など、みなさんに



とっても魅力的な研究テーマが数多くあります。

以上が材料力学研究室の紹介になります。



機械システム工学科の近況

平成22年度機械システム工学科学科長 池田清彦



さて、ご存知のように今年の宮崎は口蹄疫という激震に襲われ、大きな被害を受けましたが、このほどやっと終息宣言が出されました。しかし、その爪痕は生々しく、立ち直るまでまだまだ年月がかかりそうです。ただでさえ、世の中の景気は回復したとは言えない状況なのに、畜産業に従事されている方はどれほどの痛手を受けているのかと思うと、お気の毒でなりません。国の補助を少しでも多く得ることができればと祈るばかりです。そのような逆境のなかにおいて宮崎大学、そして本機械システム工学科は地方大学としての生き残りをかけて進化を続けております。

まず、昨年10月に木花キャンパス内に完成

した国内最大級の集光型太陽光発電システムが順調に稼働しており、これからも宮崎大学が研究の拠点となって産学が連携し、自然エネルギー活用とその社会への普及のために、さらに活躍の場を広げていくものと期待されます。宮崎は日照時間が最も長く、太陽エネルギーに恵まれた温暖で豊かな地域です。この恵みを太陽光発電を通して全国に発信していただきたいものだと思います。

学科の状況をお伝えしなければなりません。昨年10月から、菊地教授が評価担当の副学長に、また、鄧教授が教務担当の副学部長に就任され、学部および大学の教育・運営に関する重要な公務に精励されておられます。その一方で、手薄になった残りの教員で学科の運営をまかになっていかねばならず、ただでさえ少ない教員数の中で、各教員の負担度は増大する一方です。その中で、昨年からの検討が進められてきた工学部の改組計画案が固まりつつあります。少子化、大学進学率の上昇、生徒の理科離れ等の工学部が直面する多くの課題に対応するため本工学部でも昨年からの学部改組の検討に乗り出し、委員会を設置して具体的に改組案の検討を重ねてきました。学部改組により順調にいけば本学

科も平成24年度から新しい学科として再編される予定です。なお、改組後においても、ものづくりを推進していく高度専門技術者を輩出して行こうとする本学科の基本姿勢は変わらないと思います。

高度専門技術者の育成といえば、今年度は日本技術者教育認定機構(JABEE)による本学科の教育プログラムの認定継続審査を受審する年になります。本学科技術者教育プログラムは平成16年に技術者教育プログラムの質を保証するお墨付きであるJABEEによる認定を受けましたが、その有効期間は6年であり、認定を継続するためには、今年度、新たに審査を受けなければなりません。今年、本学科の他に、情報システム工学科が認定継続審査を、また材料物理工学科が新規審査を受けることになっており、三学科同日審査となる予定です。いずれの学科も改組を控えてこれからの教育体制を維持・発展させるために大事な審査になると思います。

大学院教育は高度専門技術者の育成に欠かせない教育です。平成19年度から大学院修士課程の学生を対象に始まった長期インターシップは本年度も順調に実施されております。機械システム工学専攻からもこれまで、(株)システム技研、(株)キヨモトテックイチ、宮崎県木材利用技術センター等の県内の民間企業や公設試験研究機関に出かけ、有益な成果をあげています。教育分野での産学官連携により、広い視野と今後の展望を持ち、実践力があり行動できる人材を育成できるのではないかと期待しています。

地域・社会との連携した活動も忘れてはおりません。昨年の11月に開催した工学部テクノ

フェスタでは、本学科の熱工学研究室が中心となって「熱エネルギーの有効利用について」と題して講義を、また「高速で変化する圧力や温度をはかる」と題して実験を行い、県内の高校生に対して、貴重な体験学習の場を提供しました。このような地道な活動がともすれば理科離れを起こしがちな最近の高校生や中学生に対する工学への興味の啓発になると思います。

学会を通しての本学科の活動では、平成21年度は宮崎大学が日本機械学会九州学生会の委員長校となり、今年の3月に14年ぶりに九州学生会卒業研究発表講演会が本学で開催されました。九州管内25校の高専、大学から229件の講演発表があり、その中で25件の発表が優秀講演賞として表彰されました。この中には、本学科から3件の講演発表が含まれており、九州大学、九州工業大学等の大きな大学が居並ぶなかで、大いに健闘したのではないかと評価しております。

平成21年度の就職状況については、ここ数年、景気後退の影響を受け、雇用状況も厳しい状況にあります。本学科では学部、大学院とも100%の学生が企業および官公庁に就職しております。特に、大学院のほとんどの学生は大企業へ就職しており、不況においても、ものづくりを充実させようとする企業の機械技術者への期待・要望が高いことを実感しております。機友会の先輩方々も、何卒いつまでも後輩諸君を温かく見守っていただきますとともに、いろいろな形で本学科を支えてくださいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、今後、機友会の活動がますます活発になることを祈念して、近況報告とさせていただきます。

就職/進学先一覧(平成22年3月卒業/修了)

【学部卒業生】

太平工業、キヨモトテックイチ、ミツワ電子、竹田設計工業、ホシザキ電機、霧島酒造、西日本プラント工業、ダイワハウス、三菱エンジニアリング、JA尾鈴、宮崎ガス、キャノン電子、アルプス技研、オムロンフィールドエンジニアリング九州、関東自動車工業、キヨナガ、米子ガス、日鐵プラント、高田工業所、Panasonic、航空大学校、海上自衛隊、航空自衛隊、宮崎大

学大学院(22)

【修士課程修了生】

安川電機、伸和コントロールズ、TOTO、住友金属交通産機品カンパニー、東郷メディキット、リコーエレメックス、アイシンエイダブリュウ、ニコン、マツダ、東京エレクトロン、アサヒビール、コンフォート、太平工業、ダイハツ九州、ダイハツ工業、ニシオティーアンドエム、宮崎県

平成21年度の博士論文・修士論文・卒業論文の題目一覧

【博士論文】

Daniel T. REDDA : Influences of Alloying-Element Content and Surface Texture on Surface Durability of Case-Carburized Steel for Gears

【修士論文】

(1) 機力制御部門

川口亮：往復機械用振動低減装置の開発
山田典雅：磁気浮上攪拌フィンを利用した振動型混合装置の開発（液中攪拌フィンの動特性に及ぼす減衰の影響）
大西惇平：多自由度非線形振動系に対する高精度解析手法の提案
スウ ラク：粒子要素法による粒状体衝撃ダンパの解析
池内真史：任意配置したカメラの画像を用いた大型構造物の定量化
西村隼人：下水管三次元スキャナにおけるキャリブレーションに関する研究
三浦雄一郎：暖地用小型バイオガスプラントに関する研究（発酵槽の温度制御とエネルギー収支の関係）

(2) 材料部門

篠原隆志：シラスを利用した表面仕上げに関する基礎研究（各種表面粗さの浸炭焼入れ面への適用）
永本一超：疲労き裂発生寿命に及ぼす表面状況の影響評価
長友宏輔：産業廃棄物を利用した高強度ガラスセラミックスの開発およびその材料特性評価
矢野翔一：ICG法に金属薄膜法を適用することによる微小き裂R曲線特性の評価
吉原智啓：板の穴あけを必要とせず継手の分解が可能なりベット締結法の開発

(3) 流体部門

石黒圭亮：エアロトレイン用浮上翼の静的及び動的空力特性の数値解析
伊東朋秋：オートクレーブ内自然対流の3次元数値シミュレーション
上村兼一郎：マスク装着時の顔周りの非定常流れの数値解析

(4) 熱部門

木屋尾祐太：バイオガスの乱流燃焼特性に関

する実験的研究（時系列火炎画像による火炎形状の評価）

中釜健斗：ガソリンエンジン燃焼室の熱伝達率算出の高精度化に関する研究

【卒業論文】

(1) 材料部門

池田廣輔：インデンテーション微小き裂を有するソーダ石灰ガラスのき裂進展特性（残留応力の影響を考慮することによる検討）
關友亮/西川晋平：インデンテーション微小き裂を有するジルコニアセラミックスのR曲線特性
川越正樹：無機系廃棄物を利用したウォラストナイト結晶化ガラスの開発
斉藤宏太：衝撃リベット締結法による異種金属薄板の締結
花田鷹明：有限要素法による光重合型コンポジットレジン収縮解析
大崎賢一郎：粘土と廃棄GFRPの混合物を焼成したタイルの特性
浜崎達也：足底用緩衝体の力学的性質と静脈血流に及ぼす効果
原田康平：木粉、竹繊維および生分解性接着剤を混合したエコマテリアルの開発（曲げ強度に及ぼす竹繊維の配向の影響）
上田哲平：バイオマス燃料を用いたハウス暖房機の小型化に関する研究（周期的加熱を受ける中空円筒の平面軸対称非定常熱応力）
政木健志：表面温度応答を用いた材料および構造物の非破壊検査に関する研究（加熱と冷却を受ける厚板の非定常温度応答の理論解析）
ムハマド ニスリリ：連続焼鈍炉内の薄板ストリップの熱座屈問題に関する研究（一様温度変化を受ける長方形板の熱弾性座屈の理論解析）

(2) 熱部門

相本隆明：木材乾燥における排気ガスエネルギーの有効利用に関する研究
岩崎洋介：ガソリンエンジン燃焼室における熱流束計測の高精度化に関する研究（アルミ製燃焼室壁での実験と熱流束計表面温度分布の予測）

大塚晃則：赤外線を利用した燃焼室壁面の温度計則に関する研究（赤外線温度計の校正とエンジンでの実験）

帆足貴紀：バイオガス／空気予混合気の燃焼特性に関する研究（計測システムの改良と燃焼実験）

森口剛士：火花点火機関におけるバイオガス燃料の燃焼特性に関する研究（エンジン実験装置製作と燃焼実験）

(3) 設計加工部門

金井勇人：自動車用駆動系歯車の加工と性能に関する研究（各種加工歯車の硬さに及ぼす温度の影響）

津坂裕矢：浸炭合金鋼の転がり滑り接触面に関する基礎研究（表面性状の変化に及ぼす鏡面仕上げの影響）

平川直樹：浸炭合金鋼の転がり滑り接触面に関する基礎研究（表面損傷に及ぼす影響因子の解明）

松崎馨：浸炭合金鋼の転がり滑り接触面に関する基礎研究（表面性状の変化に及ぼす負荷の影響）

山本琢也：自動車用駆動系歯車の加工に関する基礎研究（可塑性材料を用いた歯面仕上げ法の開発）

潮崎諒：自動車用駆動系歯車の負荷能力に関する研究（歯車試験機を用いたシェーピング加工歯車の運転試験）

大内宏輝：股関節の脱臼限界評価方法に関する研究

大野敬人：汎用根菜収穫機の開発に関する研究（畝幅可変の根菜収穫機的设计）

岩脇和憲：複雑形状機械部品の固定治具の開発（複数ピンとプレートを用いた固定治具）

黒木慎也：複雑形状機械部品の固定治具の開発（ねじピンを用いた固定治具）

鈴木祥平：運動シューズ用緩衝バネの性能評価

森永真樹：疲労寿命に及ぼす表面状態の影響に関する研究（表面粗さと浸炭焼入異常層による疲労き裂発生寿命の変化）

(4) 機力制御部門

厚地勇紀：連続定量型粉体供給装置の開発

鳥原秀夫：楕円型平均法に関する研究（過渡応答の解析）

長谷川晋太郎：往復機械用振動低減装置の開発

藤川宗治：離散要素法による粒状体ダンパの減衰メカニズムの解明

山下正俊：歩行時衝撃吸収靴の有効性の検証
中之蘭将児：PIVにおける歪み補正に関する研究（標準画像による評価）

浜脇香奈江：屈折レンズの高速回転による微小流動計測

奥賢志：ガルバノスキャナーを用いた三次元形状の計測

勝目雄大：三次元形状と熱画像の合成に関する研究

荒川将：下水管計測ロボットの小型化に関する研究

川野雄基：円形シフト法を用いたアームロボットの制御に関する研究

(5) 流体部門

益崎悠司：地面効果を受ける翼のフラッター特性の数値解析

榎元洋文：回転円盤走行装置を用いたエアロトレイン翼の揚力係数と抗力係数の計測

隈本翔太：省エネ型木材乾燥機の開発を目指す機内の気流の流動計測

蒔崎誠：野菜乾燥炉における水蒸気の流動現象シミュレーション

王忠恵：新型渦流量計におけるカルマン渦放出に関する可視化実験

有上裕志：マスク材料の通気抵抗に関する研究



木花キャンパスに設置された産学共同研究用の集光型太陽光発電システム（集光型では国内最大級の14kW×2機、太陽自動追尾型）

機友会からのご報告とお知らせ

平成22年 機友会理事会議事録

理事長 長瀬慶紀（1983(S58)年卒業）



ニューウェルシティ宮崎にて平成22年2月27日（土）に開催された機友会理事会の報告をいたします。

1. 役員交代について

近畿および中四国支部長交代に伴い、次の通り本部理事を交代することを了承しました。

近畿支部長 山口 繁 氏（S33卒業）

→ 富永 良吾 氏（S51卒業）

中四国支部長 池元 健一 氏（S40卒業）

→ 尾崎 征夫 氏（S39卒業）

2. 機友会活動報告

渡邊会長より、平成21年機友会活動として、本部より各支部総会へ平野常任理事の派遣および機友会会報第12号の発行について報告がありました。

3. 各支部の活動報告

宮崎支部総会にて報告することとしました。

4. 平成21年会計報告・監査報告

友松会計理事より会計報告、須崎監事より監査報告があり、了承されました。

5. 平成22年機友会活動計画について

機友会本部の活動として、会報発行および各支部総会への派遣を行うこととしました。

6. 平成22年予算について

友松会計理事より提案があった予算案が了承されました。

ただし、旅費は、原則としてパック料金で支

給することとしました。また、会報に広告を掲載し収入を増やすよう要望が出され、宮崎県に広告の依頼交渉を行うこととなりました。

7. 本部への依頼事項について

機友会会報に寄付金納入者名を掲載することとしました。

8. その他

①工学部創立60周年記念連続講演会「先輩から後輩に伝える技術者のこころざし」について、6/29に 山下宏幸氏(S37卒業、福岡大学名誉学長、演題「博学的学力から哲学的学力へ」)の講演があった旨の報告がありました。また、講演予定者リストの作成のため、大学側から各支部に対し該当者の推薦依頼がありました。

②機友会ホームページの充実に関する各支部からの原稿・写真等の資料提供の依頼がありました。

③渡邊会長から卒業式懇談会にて機友会の説明を行った旨の報告がありました。

④井上常任理事より、宮崎県福岡事務所からのパンフレットが配布されました。また、福岡天神地下にアンテナショップが4月にオープンするとの紹介がありました。

⑥次回、本部理事会の開催日を平成23年2月26日（土）に決定しました。



付属図書館屋上の太陽光発電装置

宮崎大学工学部機友会 平成21年会計報告

(平成21年1月1日から平成21年12月31日)

収入の部			支出の部		
科目	金額		科目	金額	
	予算	決算		予算	決算
繰越	1,690,632	1,690,632	会議費	35,000	12,850
預金利息	200	123	通信費	25,000	0
本部会費	600,000	426,000	会報印刷費	220,000	219,135
			会報郵送費	150,000	113,520
関東支部		64,000	交通費	300,000	332,210
			その他	60,000	23,193
			小計	790,000	700,908
			会費振込手数料他	30,000	23,080
寄付金		164,500	支出計	820,000	723,988
			繰越	1,470,832	1,621,267
合計	2,290,832	2,345,255	合計	2,290,832	2,345,255

上記の通り報告いたします。

平成22年2月14日

本部会計 友松重樹 (H7 卒)

監査報告

宮崎大学工学部機友会会則第6条の規定により、平成21年の機友会(本部)会計について、金銭出納簿、預金通帳、各種台帳並びに領収書について監査した結果、適切な処理が行われており、異議のないことを認め、監査報告いたします。

平成22年2月21日

本部監査 監事 須崎孝一(S57 卒業)
監事 川越新吾(H7 卒業)

宮崎大学工学部機友会平成22年予算

(平成22年1月1日から平成22年12月31日)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
繰越	1,621,267	会議費	15,000
預金利息	200	通信費	1,000
本部会費	600,000	会報印刷費	220,000
		会報郵送費	150,000

		交通費	350,000
		入会促進補助費	50,000
		会費振込手数料他	30,000
		その他	60,000
		支出計	876,000
		繰越	1,345,467
合 計	2,221,467	合 計	2,221,467

平成22年機友会役員名簿

役員名	氏 名	卒業	住 所	電 話
会長	渡邊 祥造	S37	880-1114 国富町三名 4456-18 s-wtnb@nifty.com	0985-75-1041
副会長 (宮崎支部長)	野崎 清春	S41	889-1601 宮崎市清武町木原 6604-10 knozaki@miyazaki-catv.ne.jp	0985-55-6433
副会長	森山 三千彦	S37	885-0011 都城市下川東 2-3-1 moriyama_mi@ybb.ne.jp	0986-22-0124
理事長	長瀬 慶紀	S58	880-0801 宮崎市老松 1-7-10 サーパス文化の森 204 ynagase@cc.miyazaki-u.ac.jp	0985-26-6737
常任理事	平野 公孝		880-0923 宮崎市希望ヶ丘 4-3-9 hirano@cc.miyazaki-u.ac.jp	0985-56-9769
常任理事	井上 康雄	S45	880-0948 宮崎市薫る坂 2-6-5 himuka-inoue@miyazaki-catv.ne.jp	0985-52-5611
理事	前田 勉	S46	880-0841 宮崎市吉村町平塚甲 899-24 mayoko@miyazaki-catv.ne.jp	0985-26-1286
理事	有岡 耕三	S48	880-0823 宮崎市北権現町 265-26 arioka3@iwk.bbiq.jp	0985-25-0169
理事(関東機友会 会長)	草部 一也	S59	134-0088 東京都江戸川区西葛西 3-3-13 -1106 kusabe-kazuya@rouge.plala.or.jp	03-5605-1362
理事(中部支部長)	高田 朗	S38	470-0376 豊田市高町東山 11-2 akira_takata@mvg.biglobe.ne.jp	0565-44-1848
理事(近畿支部長)	富永 良吾	S51	〒593-8328 堺市西区鳳北町 10 丁 8-6 tomi-dainichi@kzc.biglobe.ne.jp	072-266-3240
理事(中四国支部 長)	尾崎 征夫	S39	〒736-0082 広島市安芸区船越南 2 丁目 19-26-216	082-822-5693
理事(九州支部長)	山本 俊朗	S51	811-3214 宗像市福間町花見ヶ丘 3-19-5 toshi.yamamoto@jp.fujitsu.com	0940-43-2881
会計理事	友松 重樹	H07	880-0924 宮崎市郡司分内 9857-1 レインボーハイム 205 s-tomo@cc.miyazaki-u.ac.jp	080-6410-4789
監事	須崎 孝一	S57	880-0023 宮崎市和知川原 3-19 JGM ヴェルデ和知川原 502 suzaki@miyazaki-catv.ne.jp	0985-26-9731
監事	川越 新吾	H07	880-0929 宮崎市まなび野 2 丁目 11-5 kawagoe-shingo@pref.miyazaki.lg.jp	0985-56-1829

機友会への寄付者の皆さま（期間：平成12年1月～平成21年12月）

機友会へのご支援に、厚くお礼を申し上げます！

機友会理事会では、ご寄付に対して感謝の意を表するために、お名前を会報に掲載することになりました。今回は、今までの分をまとめて掲載いたしますが、次回からは、当該年の掲載となります。引き続きのご支援を、よろしくお願いいたします！

青木八郎, 赤枝聡, 明田尚之, 秋月聖種, 秋永宏, 芦塚俊之, 明田尚之, 厚家博行, 安部成一, 天川恭平, 天野富明, 荒川久行, 有岡耕三, 有村幸則, 安武正二, 猪谷崇明, 伊黒洋昭, 池野恭一, 石井紀雄, 石井裕太, 石川真澄, 石塚典久, 石橋一誠, 石橋正徳, 石松昭, 板野哲也, 市瀬吉保, 伊藤元博, 稲丸貢, 井上修二, 井上雅博, 井上康雄, 指宿千任, 今岡哲也, 伊義睦男, 岩切辰夫, 岩切俊恵, 岩満昭明, 上園剛, 上田泰稔, 上村茂, 上村純雄, 上村久明, 内田雅章, 宇都宮隆一, 海津浩一, 大迫武敏, 太田建次郎, 太田貴大, 岡田泰彰, 緒方省三, 岡田奉彰, 小田進, 落合兼俊, 尾辻昌博, 小野猛, 小野美武, 甲斐忠男, 甲斐俊彦, 鏡山英二, 香月謙治, 金田正一, 金丸健, 上江洲常隆, 神先告友, 神村修一, 上村純雄, 上村久明, 川崎則雄, 川崎宗儀, 河野俊治, 川野徹, 川野雄三, 菊池昭三, 菊池崇之, 菊地正憲, 木下仁志, 木下康彦, 木村元紀, 久保田泰輔, 倉垣興治郎, 黒木貴, 黒木保秀, 黒木康利, 黒田健夫, 高妻智仁, 古賀愿, 小代真幸, 児玉賢一, 児玉賢二, 児玉武智, 児玉弘之, 是貞博, 近藤保光, 最所敏彦, 坂口嘉男, 坂本敏夫, 坂本義昭, 坂本義勝, 佐々木怜, 佐沢利和, 佐藤孝治, 佐藤秀雄, 鮫島利男, 沢田範雄, 澤希生, 塩田潔, 塩田隆宏, 塩月光夫, 下郡順, 四宮主基生, 柴田強起, 白石正彦, 新小田浩, 菅健一, 菅谷里春, 菅原良利, 杉伸太郎, 鈴木清次, 鈴木俊秋, 瀬尾利雄, 曹曙陽, 副島浩志, 高井光男, 高瀬谷英治, 高田光憲, 高浜正広, 高原一禎, 高宮洋文, 高山和久, 竹内隆, 竹内詔, 竹下八州男, 竹之内優, 田中重海, 田中愿, 棚橋洋昭, 垂野裕, 田原恵, 田部雄二, 田村正剛, 津田吉広, 土田真作, 津曲武俊, 出口重治, 照屋衛, 堂園宏人, 鄧鋼, 時任久文, 徳永和夫, 戸塚俊二, 富田亮作, 富永良吾, 豊嶋攻, 永井正倫, 中里昌弘, 中島傳, 中嶋毅, 中島傳, 中田歡一, 中武英俊, 長田雅雄, 長友直美, 長友正嗣, 中西靖正, 中西勉, 中野庄一郎, 中村武浩, 中村俊郎, 奈良延善, 西崎展弘, 西村晃, 西山賢次, 新田重治, 根井郁拓, 根乃木敏生, 能塚康郎, 野崎清春, 野崎真仁, 野村国彦, 萩尾齐明, 橋本光生, 服部昭男, 馬場清純, 浜砂猛敏, 林田吉弘, 原岡昌弘, 原美喜男, 東充志, 樋口浩二, 日野長生, 平柴裕司, 平田忠孝, 平塚博, 平塚雅男, 平野公孝, 平野正徳, 平山智章, 平山智幸, 深見隆久, 福田照男, 福永修, 藤岡憲治, 藤村弘司, 堀部大輔, 前田正名, 前田勉, 牧坂紀保, 牧野俊雄, 松尾勝義, 松尾好一, 松木良助, 松嶋清夫, 松田幸夫, 松田吉昭, 松原輝幸, 松藤宏幸, 松前達也, 松本誠一郎, 真鍋健一, 三浦隆, 水谷晴也, 道脇賢介, 道脇征記, 充行正則, 宮崎夏彦, 宮田和昭, 宮田良正, 宮原克敏, 宮本正弥, 牟田了, 向野俊一, 村上修, 米良俊孝, 矢野哲郎, 山川昇, 山口憲樹, 山口憲禧, 山口繁, 山下武司, 山下宏幸, 山下祐一, 山出谷盛正, 山中信昭, 山本順一, 山本節夫, 山本俊朗, 山元康博, 与儀保夫, 横内誠三, 吉原康弘, 吉満寛, 吉本隆安, 米山松雄, 寄田純雄, 若林国俊, 和田志朗, 渡辺俊, 渡邊祥造, 渡辺岳暁, 渡辺雄樹（五十音順, 敬称略）

機友会の本部会費納入のお願い

★本部年会費：2,000円（H22年分のみ送金ください！）

本部会費は、2,000円です。

各支部の年会費と間違わないでください！

★寄付金：可能であればご寄付をお願いします。

★払い込み方法

下記の郵便振替口座に直接振り込んで下さい。

郵便振替口座： 口座番号 01720-2-38628

加入者名 宮崎大学工学部 機友会

○振込の際の受領証をもって、領収書に代えさせていただきます。

支部総会のご案内

支部名	中部支部
支部長名	高田 朗
前回の支部総会について	
開催日	平成 21年10月17日 土曜日
会 場	犬山名鉄ホテル(犬山市)
参加者数	40名
次回の支部総会について	
開催日時	平成22年10月17日 日曜日 12時00分開催
会場	名古屋市ニッパビル地下1F
その他の事務連絡	本年幹事会社:トヨタ自動車土屋氏(56年卒) 本部、支部長さんへご案内行きますのでご参加ください。

支部名	近畿支部
支部長名	富永 良吾
前回の支部総会について	
開催日	平成21年10月18日 日曜日
会 場	ホテル阪急エキスポパーク
参加者数	26名
次回の支部総会について	
開催日時	平成22年10月16日 土曜日 12時00分開催
会場	大阪マルビル大阪第一ホテル

支部名	中四国支部
支部長名	尾崎 征夫
前回の支部総会について	
開催日	平成21年11月14日 土曜日
会 場	磯の坊
参加者数	20名
次回の支部総会について	
開催日時	平成22年11月13日 土曜日 11時30分開催
会場	磯の坊(広島市、広島駅近く)

支部名	九州支部
支部長名	山本 俊朗
前回の支部総会について	

開催日	平成21年11月15日 日曜日
会 場	福岡国際ホール 西日本新聞会館16階
参加者数	32名
次回の支部総会について	
開催日時	平成22年11月14日 日曜日 11時30分開催
会場	福岡国際ホール 西日本新聞会館16階
その他の事務連絡	S51年卒は、博多の支部総会をきっかけに、宮崎市で同窓会を開催しました。33名の卒業のなかの23名が集結し、奥様同伴も4名でした。定年まで3年残すのみとアトがないのに、みんな二十歳代の気分になりました。

支部名	宮崎支部
支部長名	野崎 清春
前回の支部総会について	
開催日	平成22年2月27日 土曜日
会 場	ニューウエルシティ宮崎
参加者数	支部会員 26, 卒業予定者 10, 大学関係者 2(支部会員重複除く), 宮崎県 1, 各支部関係者 5, 本部関係者 2 計 46
次回の支部総会について	
開催日時	平成23年 2月26日 土曜日 午後 開催予定
会場	ニューウエルシティ宮崎
その他の事務連絡	「文集」を発行する予定です。投稿ご希望の方は、どしどし支部長までお寄せ願います。同窓生に参考になりそうな内容でしたら、何でも結構です。2000字以内。

支部名	関東機友会
支部長名	草部 一也
前回の支部総会について	
開催日	平成22年5月15日 土曜日
会 場	日本青年会館
参加者数	33名
次回の支部総会について	
開催日時	平成23年6月4日 土曜日 12時30分開催
会場	日本青年会館
備考	懇親会には、化学・電気に加え土木の参加を検討中!

宮崎県知事 オススメの土地です。

宮崎フリーウェイ 工業団地

好評
分譲中



新分譲価格

3,500円/m²

に大幅プライスダウン

+

最大**50%**

の用地取得補助制度を新設

さらに!!

年額**100円/m²**
のリース制度も新設



南九州の事業拠点として最適です。

太陽と緑あふれる神話の国みやざきで、
御社の新しい
歴史の一步を刻んでみませんか。

オススメ
その1

高速道路のICに近い
南九州の中心地です。

宮崎自動車道高原ICからわずか1.5kmです。
八代、鹿児島、宮崎に約1時間でアクセスできる
南九州の事業拠点に適した土地です。

オススメ
その2

宮崎空港と鹿児島空港に
1時間でアクセス。

宮崎空港と鹿児島空港から1時間以内でアクセスできます。
東京・大阪・名古屋は、日帰りビジネス圏内です。

オススメ
その3

低価格で広い土地が確保できる

ゆとりのある6区画28haを企業様のニーズに
あわせてレイアウトがすることができます。
また、工業用水も整備済みです。

オススメ
その4

上限50億円、
九州最高額の支援制度

宮崎県へ立地される企業への支援として、
雇用や投資の規模に応じて最大50億円まで補助することが
できます。また、宮崎フリーウェイ工業団地限定の
支援制度を設けています。



- 所在地:宮崎県西諸県郡高原町大字広原
- 分譲面積:約28ha/6区画
- 交通アクセス
 - 宮崎自動車道高原ICまで1.5km
 - 福岡ICから2時間40分
 - 宮崎空港まで57km
 - 宮崎港まで60km

[宮崎フリーウェイ工業団地企業立地促進協議会]

宮崎県 県商工観光労働部 企業立地推進局 企業立地課
TEL.0985-26-7096 FAX.0985-26-0219

高原町 まちづくり推進課
TEL.0984-42-2111(代) FAX.0984-42-4623

宮崎県東京事務所 TEL.03-5212-9007 FAX.03-5215-5180

宮崎県大阪事務所 TEL.06-6345-7631 FAX.06-6345-7633

宮崎県福岡事務所 TEL.092-724-6234 FAX.092-724-6235

詳しい内容は、**宮崎県企業立地** **検索**

機友会各支部の懇親会風景をお伝えします!

その10



宮崎支部総会（平成22年02月27日）



九州支部総会（平成21年11月15日）



中四国支部総会（平成21年11月14日）



近畿支部総会（平成21年10月18日）



関東機友会総会（平成22年05月15日）
機械工学科, 工業化学科, 電気工学科の3学科合同懇親会



中部支部総会（平成20年10月19日）

宮崎大学工学部 機友会

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学工学部機械システム工学科 長瀬研究室気付
TEL/FAX 0985-58-7294 E-mail : mech@cc.miyazaki-u.ac.jp

宮崎大学のホームページ <http://www.miyazaki-u.ac.jp/>
工学部のホームページ <http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/>
機友会のホームページ <http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/alumni/>